



増水した伊豆沼。新田から西の方向を望む（撮影：千葉保幸氏）

Vol.146
令和4年8月号

豪雨によるハス冠水

7月12～16日にかけて、伊豆沼・内沼周辺は、302.5mm（築館アメダスポイント）という稀にみる豪雨に見舞われました。特に16日には1日で168.5mmの雨量があり、沼の水位は15日夜から急激に上昇、翌16日深夜にはK.P. 8.5m前後に達するなど、増水前と比べると約2mの水位上昇となりました。この時点で沼に2カ所ある越流堤で沼から農地への越水が始まったと思われます。ハスは16日の午前9時ごろまでは、ほぼ水面下に没しました。ハスは3～4日の冠水で枯死します。かなり厳しい状況ですが、18日には水面に顔を出す葉が少しずつ見え、21日にはかなりの葉が出てきました。生長期にあたるこの時期、水位上昇に適応して伸びてきたものと思われます。前回、ハスが全滅したのは1998年、このときは224mmの雨量（8月25～31日）がありました。今回はそれを大幅に上回る雨量となっています。早期の水位の低下と生長期のハスの今後の頑張りに期待したいと思います。

（7月17日の増水状況）



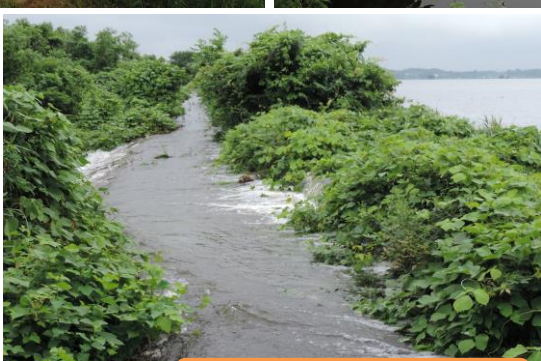
冠水した2工区



堤防ぎりぎりまで水位上昇



植物園入口付近



3工区越流堤 沼から越水



沼出口にある沼口橋

小中学校等の体験活動

栗原市内の小中学生や仙台の専門学校等の生徒が、伊豆沼で環境学習や保全活動に取り組みました。沼の中で定置網の魚たちを観察したり、沼で保全している水生植物のカキツバタを植栽するなど、さまざまな体験をしました。植栽活動では、合計100株以上のカキツバタが植栽され、来年の開花が楽しみです。



栗駒南小2年のみなさん



仙台ECO動物海洋専門学校のみなさん



栗駒南中1年のみなさん



志波姫小2年のみなさん



聴覚支援学校のみなさん



鶯沢小6年のみなさん

エコトーンを造成しています



造成されたエコトーン
(杭の手前の高くなっている場所)



浸水時、エコトーンを
利用するダイサギ

水域から陸域に至る境界のところを移行帯（エコトーン）と呼びます。伊豆沼・内沼では波浪により沼岸が削れ、エコトーンが消失しつつあります。エコトーンは動植物の貴重な生息場所であり、水質改善にも貢献します。そのため、消失が著しい沼南東部の沼岸を中心に植生ロールや木柵などによるエコトーン造成を実施した結果、マコモ群落などの回復が見られた他、食物連鎖の上位に位置する鳥類の利用が確認されるなど、その効果が現れ始めています。

伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ オオミクリ ～

オオミクリは、平野の泥深い池沼に生育する大型の水生植物です。ミクリの仲間は、夏になると栗のイガのような実をつけるのですが、オオミクリはミクリ類の中でも特に大きく（直径3cm程）目立つ実をつけることが知られています。また、葉の中身がスポンジ状で浮き上がりやすいため、波風の立たない穏やかな内湖に生育することが多いようです。

あまり知名度のないオオミクリですが、多くの水生昆虫が餌や産卵に利用するため、湿地の生態系を保全する上で重要な植物となっています。しかし、干拓などにより生育地の池沼が減少し、絶滅が危惧されてることから、当財団は、生育地（エコトーン）の造成や個体数の増加と保全を図っています。

